



レポート・卒論書き方セミナー

脱・感想文！ 注と引用のコツ

※ 今回は次の研究論文を例にします。
高橋早苗「『源氏物語』典拠研究の限界と可能性
——若紫巻と司馬相如伝の関わりを事例として——」
(『中古文学』第95号、2016年6月)

※ 分野・個人によって差異があります。参考としてご覧ください。

図書館学習サポーター

現代社会文化研究科2年 佐藤 桃子

コツさえ分かれば 注と引用は強い味方！

引用 ... 自分の意見を支える役割。
(賛同・反論の両方に◎)

注 ... 論点との関係は薄い
が、論じる上で必要な事項を
読者に示す役割。



本文引用の方法は2つ！

①本文中に「」を使って引用する。

玉上氏は、「作者」が「巻名をわかむらさきと記」すことで「読者に『伊勢物語』第一段」との関係を意識させ、出典との重なりとずれの面白さを読み味合わせようとしたと指摘する。
(35頁)

-
- ・ 先行研究を自身の論文に組み込んでいる (肯定的)。
 - ・ 「作者」「巻名をわかむらさきと記」「読者に『伊勢物語』第一段」などのキーワードを引用する事で、注目するポイントを絞る。

本文引用の方法は2つ！

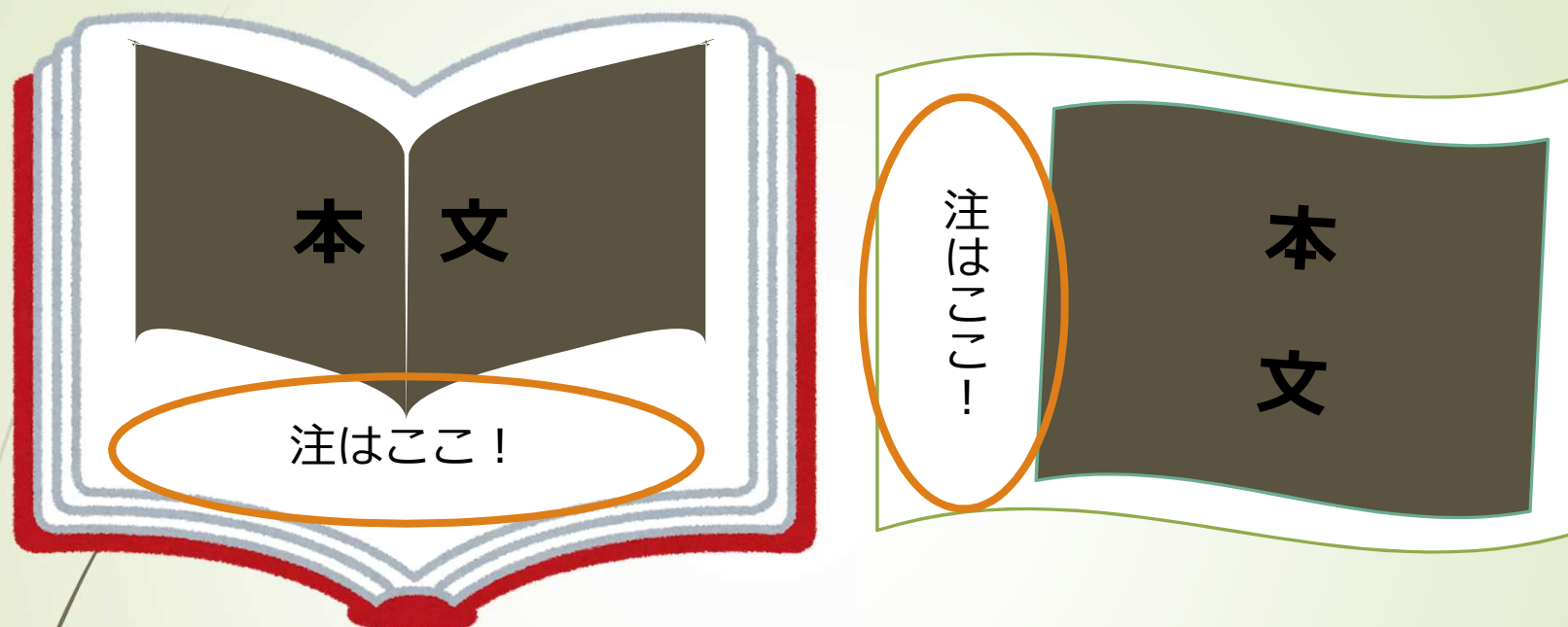
② 1行空け・2字下げを行い、引用する。

典拠研究の現在についてこのように思いをめぐらす時、次に挙げる稲賀敬二氏の発言は示唆的である。

物語の作者・享受者・研究者という立場の違いによって、引歌についての認識には、さまさまの落差が生じる。… (35頁)

- 複数の注目ポイントを挙げる事が出来る。
(肯定・否定の両方を行いたい時、特に◎)
- 長文を引用する事で、注目ポイントの前後の文脈を伝える事が出来る。(誤解を招きにくい)

注は使い分けが重要です。



本文下部（横書き）、本文左側（縦書き）に書く。

- ☆ 論文・レポートの時は、文末（章末）に書く事が多い。
（時間にとらわれず、読み手が自由に見返せるため）。
- ☆ 口頭発表の資料には、注をふったページの末尾に書いた方が見やすい。
（語句の意味など、読み進める上ですぐに確認できた方がよいものを。）

注番号の場所に迷ったら……

① 矢部寿基氏は「……」と指摘する。

→ 「……」と指摘する¹。
「……」¹と指摘する。 } どちらでもOK!



② 戸部那菜瀬氏らの研究では、……

→ 氏らの研究²では、

① ……本文引用の際は、出典を本文か注に明記！
自分の論と先行研究を区別する事が大切です。

例) 注1：著者名『書名』（出版社、出版年月）

② ……複数の先行研究を挙げる場合は、氏名の直後に番号を振る。
この場合、確認した論文や研究を具体的に示す事が重要◎

例) 注2：戸部那菜瀬氏「論文名」（『収録雑誌名』、
発表年月）をはじめ、○○氏「…」や××氏「…」など
に論考がある。